

都道府県・指定都市番号	14	都道府県・指定都市名	神奈川県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	国語
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○ 古典を含む我が国の言語文化に対する興味・関心を高めるための学習・指導方法及び学習評価の工夫改善についての研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	かながわけんりつふじさわそうごうこうとうがっこう 神奈川県立藤沢総合高等学校（827）				
所在地（電話番号）	神奈川県藤沢市長後 1909（0466-45-5200）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.fujisawasogo-ih.pen-kanagawa.ed.jp/				
研究のキーワード	伝統的な言語文化，言語活動，年間指導計画，教科間連携，探究的な活動				
研究結果のポイント	○ 我が国の言語文化に対する関心を高めるために，学習指導要領に示された目標・内容を整理し，目標とする力を身に付けるために効果的な指導方法の検討を行った。 ○ 昨年までに研究した言語活動を中心とした単元設定に関する研究について，年間指導計画上での効果的な配列方法を検討し，単元同士を関係付けたり，年間の早い段階から書く能力，話す・聞く能力を身に付ける活動をしたりすることの効果を検証した。 ○ 総合学科における教科横断的授業及び教科間連携について，必履修科目を中心としつつ，総合的な学習の時間に，学んだことを集約する展開を検討した。				

1 研究主題等

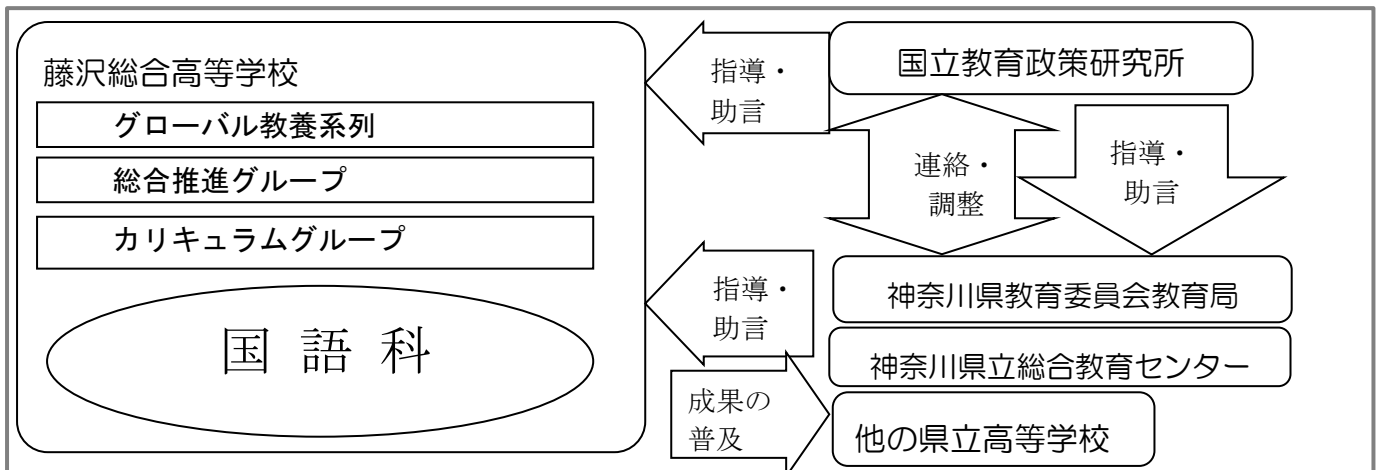
(1) 研究主題

総合学科における，我が国の言語文化に対する興味・関心を高める取組についての研究

(2) 研究主題設定の理由

本校は総合学科高校として，生徒が将来の職業選択を視野に入れて進路や生き方について考え，卒業時に多様な進路選択ができるように指導している。生徒が，自分の進路や生き方を考える際には，我が国の言語文化への興味・関心及びそれに基づいて身に付けた言語文化の特質が，生徒の多様な可能性を生み出す共通基盤として役立つと考える。総合学科に学ぶ本校の生徒が，国語総合を中心とする国語科の科目で，我が国の言語文化の中にある価値観や知恵を多角的なアプローチによって学び，自らその活動の意義を確認することで，卒業後にも生涯にわたって言語文化に親しむ態度を身に付けることができると考える。そのための学習方法及び多様な学習活動を通して身に付けた能力を，適切に評価する方法を検証したく研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成28年度	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒アンケート実施<ul style="list-style-type: none">・ 本校生徒が身に付けるべき「伝統的な言語文化と国語の特質」に係る資質・能力に対する意識を確認するため、生徒向けアンケートを実施し、研究開始時の学習状況や意識を把握した。また、年度終わりに学習状況や意識の変化を確認した。○ 単元研究<ul style="list-style-type: none">・ 研究主題に沿った単元の指導計画を検討し、国語科における言語文化を主題とした指導例や、言語活動例を調査した。・ 「伝統的な言語文化と国語の特質」を生徒が効果的に身に付けるための言語活動の在り方と評価方法を検討し、多くの実践例を蓄積し分析した。○ 公開研究授業の実施<ul style="list-style-type: none">・ 単元設定に関する研究に基づく公開研究授業を実施し、言語活動の指導例について研究協議した。○ 国語科以外の各教科等における「言語文化に関する指導」の調査<ul style="list-style-type: none">・ 各教科での言語文化に関する指導、その際の効果的な言語活動例、実施時期等を調査し、他教科等での「言語文化」指導の在り方について検討した。○ 次年度の年間指導計画作成<ul style="list-style-type: none">・ 1年次の研究成果に基づいて、次年度の「国語総合」及び「古典A」年間指導計画を作成し、他教科等の年間指導計画においても言語文化に関する指導を明確にし、計画の中に位置づけた。○ 教育課程編成<ul style="list-style-type: none">・ 現在1年次生のみ国語総合を必修科目として設置しているが、平成29年度生の教育課程の改善を図るため、2・3年次でも国語科科目を学校必修科目として設置した。○ 研究1年間のまとめ<ul style="list-style-type: none">・ 1年間の研究を振り返り、結果と次年度の取組について検討した。
平成29年度	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒アンケート実施<ul style="list-style-type: none">・ 本校生徒が身に付けるべき「伝統的な言語文化と国語の特質」に係る資質・能力を確認し、生徒向けアンケートの実施によって、研究開始時の学習状況や意識を把握した。○ 単元研究（国語科及び他教科としての実践）<ul style="list-style-type: none">・ 研究主題に沿った単元の指導計画のうち、特に効果的な指導方法を検討した。・ 他教科等で実施可能な「伝統的な言語文化」の要素を分析した。○ 年間指導計画の実施と検討<ul style="list-style-type: none">・ 年間指導計画を実践すると同時に、効果的な配列方法を検討した。○ 総合的な学習の時間における展開<ul style="list-style-type: none">・ 総合学科における、伝統的な言語文化についての中心的な授業として、総合的な学習の時間で展開し、学びの集約を図った。○ 公開研究授業の実施<ul style="list-style-type: none">・ 単元研究に基づいた公開研究授業や教科横断的授業を実施した。・ 本校の指導例について研究協議を行った。○ 神奈川県平成29年度教科別教育課程説明会（国語）での実践報告<ul style="list-style-type: none">・ 研究内容を県内の高校に報告し、研究の改善を図った。○ 単元実践例集の作成<ul style="list-style-type: none">・ 2年間の研究にもとづいた単元実践例をまとめた資料を作成した。○ 生徒アンケート<ul style="list-style-type: none">・ 研究2年を終えるに当たり、生徒向けアンケートの実施により学習状況や意識を把握した。○ 研究2年間のまとめ<ul style="list-style-type: none">・ 2年間の研究を振り返り、取り組みの成果と課題について検討した。

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

ア 目標と活動・教材の整合性についての研究

- 目標と活動について
 - ・ 生徒が目標を実現するための学習活動とその評価について研究した。
- 学習活動の分類
 - ・ 実践をもとに、目標別に学習活動を分類し、目標と活動・教材の関係を考察して、授業を通してどのような力が身に付くか検討した。

イ 効果的な年間指導計画の配列についての研究

- 年間指導計画の配列
 - ・ 昨年研究した単元計画の配列を検討し、効果的に資質・能力を身に付けるための年間指導計画を立案し、検証した。
 - ・ 伝統的な言語文化についての興味・関心を高めるため、読むことの授業を中心に据えながら、書くこと、話すこと・聞くことの授業との関連性を探った。
- 探究的な活動について
 - ・ 古典Aでの探究的な活動を見越し、国語総合にもその要素を取り入れ、科目間連携を図るよう検討した。

ウ 藤沢総合高校における教科横断的授業及び教科間連携についての研究

- 伝統的な言語文化の授業を通して身に付く資質・能力についての再考
 - ・ 他教科や系列科目の授業目標で、国語における伝統的な言語文化に相当するものがあるか整理・分析を行った。
- 教科横断的授業の研究
 - ・ 必修科目である国語総合を中心として、どのような教科・科目で横断的授業ができるか研究を進めた。
 - ・ 各科目で身に付けた伝統的な言語文化についての資質・能力を総合学科でどのように活用し、さらに伸ばしていけるか考察した。

(2) 具体的な研究活動

ア 目標と活動・教材の整合性についての研究

- 授業内活動の分類
 - ・ 目標を実現するための活動例として、本校の授業内実践を整理し、伝統的な言語文化について学ぶ授業で身に付く資質・能力について、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に分類を試みた。
- 目標と活動について
 - ・ 資質・能力を高めることを目指した授業例を蓄積し、目標と活動と教材との整合性について考えるとともに、多くの教室で実践可能な授業の在り方と体制について検討した。
 - ・ 研究した内容をもとに単元実践例集を作成した。

イ 効果的な年間指導計画の配列についての研究

- 年間指導計画の配列
 - ・ 年度当初に書く能力や話す・聞く能力を身に付ける授業を配置し、それらの授業で養った力を、読む能力を身に付ける授業で実践した。
 - ・ 単元と単元が強く結びつくように配列し、伝統的な言語文化についての興味・関心が高まったかアンケートを実施した。
- 探究的な活動について
 - ・ 国語総合で進めた探究活動を古典Aで引き継いだり、まとめたりすることで科目を越えて探究活動ができるか検討した。
 - ・ 国語総合で単元を越えて行う学習内容を選び、年間を通して行うことで古典Aにおける探究活動に通じる学習を進めた。

ウ 藤沢総合高校における教科横断的授業及び教科間連携についての研究

- 伝統的な言語文化の授業を通して身に付く資質・能力についての再考
 - ・ 各教科の学習指導要領解説から、伝統的な言語文化に相当する内容があるか分析した。
 - ・ 伝統的な言語文化を学ぶことで身に付く資質・能力の要素について考察した。
- 教科横断的授業の研究
 - ・ 国語総合で身に付いた力を、他教科でどのように展開できるか実践した。
 - ・ 2年次の総合的な学習の時間で行う、課題研究に「伝統的な言語文化」について振り返る時間を設け、国語総合や他の教科・系列科目で身に付けた資質・能力をどのように生かすことができるかどうかを分析し、また課題研究のテーマ設定についても分析した。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- ア 目標と活動・教材の親和性についての研究
- 授業実践を蓄積し、それぞれの授業でどのような資質・能力が身に付くか仮説を立て、整理した。
 - 目標実現のために生徒が主体的に学べる授業環境を作れる授業に改善できるよう、組織的に体制を整えた。
 - 伝統的な言語文化を学ぶことで身に付く資質・能力について、「通時性と共時性」を備えたものの見方や考え方が身に付いたりすることと、「伝統的な言語文化そのものの価値に気付くこと」についての意識を高められたりすることの二つの仮説を立てた。
 - 伝統的な言語文化を学ぶことで身に付く資質・能力を「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に分類したが、その成否について課題が残った。
- イ 効果的な年間指導計画の配列についての研究
- 本校の状態に合わせた年間指導計画の配列を工夫して実践したところ、単独に単元を設定するよりも、A評価の割合が増加した。
 - 探究的な活動を年間通して行うことで、生徒が学習内容に興味を持つことが、アンケートの統計からわかった。
 - 年間のアンケートでは授業を通じて、生徒の伝統的な言語文化に対する興味・関心が高まったことが確認できたが、身に付いた資質・能力をどのように使えるかということについては、授業という場を超えた活用方法や日常生活とのつながりへの意識は、まだ十分には持っていないということが、振り返りからわかった。
- ウ 藤沢総合高校における教科横断的授業及び教科間連携についての研究
- 国語総合で学んだことを内容ではなく、資質・能力ベースで横断的授業を行うためには、双方の授業で内容を確認するとともに、相互に内容を深めていくことが有効であることがわかった。
 - 本校では必修科目である国語総合と総合的な学習の時間を軸とすることで、教科間連携を行うことができ、課題研究のテーマに伝統的な言語文化を扱う件数が増加した。
 - 本校では国語科の必修科目が1年次の国語総合しかないため、2年次、3年次で展開する授業では横断的な授業で国語科の科目で学んだことを意識させにくいことがわかった。

4 今後の取組

国語総合と古典Aで実践した諸活動を、次期学習指導要領で必修科目となる「言語文化」にどのように展開できるか検討するとともに、伝統的な言語文化の資質・能力を高める教科横断的な授業の形態を、カリキュラム・マネジメントの視点に立って他教科・系列科目の授業で展開を進めたい。引いては、我が国の言語文化に対する興味・関心を高めることが、生徒自身が言語文化を享受し、継承・発展させる立場であることを理解することで、21世紀を生きる上での大きな助けとなることを実感させる指導を目指したい。